

# 丸の内コース

## 清楚な石垣が刻む「悠久の歴史と緑樹の陰翳」いん えい

市街中央部、金沢城址を中心としたこの一帯は、戦国時代の歴史や往時の緑陰を彷彿とさせます。城に隣接する尾崎神社、尾山神社などの緑樹にも心癒され、ひととき、まちなかの喧噪を忘れさせてくれます。

白鳥路 → 大手堀 → 黒門前緑地 → 尾崎神社 → 尾山神社

いしかわ四高記念公園 → 金沢城公園(玉泉院丸口～本丸園地～櫓跡～石川門)



## ●白鳥路とホテル

外濠公園白鳥路は、タブノキなどの大木とヤブツバキなどの小木が陽光を遮り、葉陰が織りなす緑黄の色彩には心和みます。金沢ゆかりの三文豪の銅像をはじめ、さまざまな彫刻が佇み、緑の中の美術館を歩いているようです。散策路内のせせらぎでは、初夏になるとホテルが飛び交う姿が



(白鳥路)

## ●大手堀

金沢城には、いもり堀、白鳥堀、百間堀などの外濠がありましたが、水濠として現存しているのはいもり堀と大手堀の一部です。大手堀には、白鳥路からのせせらぎが流れ込み、対岸の苔むした石垣の威容を水面に色濃く浮かび立たせていて、栄華を極めた加賀百万石の歴史が偲べれます。春には、歩道沿いのソメイヨシノの老並木が一齐に花ほころび、桜吹雪が棧橋を覆い尽くします。

## ●黒門前緑地

大手堀の西隣にあるのが黒門前緑地。旧検事正官舎敷地にアドレナリン、タカジアスターゼで有名な世界的化学者、高峰讓吉博士ゆかりの家屋を移築し、公園として整備したものです。土塀を廻らす屋敷構えとクロマツ、モチノキ、タムケヤマなど、植栽が施された庭園風緑地との色合いの調和が、周辺風景に落ち着きをあたえます。

## ●尾崎神社のイチヨウ

北陸の東照宮ともよばれる尾崎神社。朱漆塗の建物、<sup>ろくしょう</sup>緑青の屋根、鮮やかな色彩に目を奪われます。秋の紅葉時期にはさらに色調に深みが増し、アカマツやケヤキ、樹高18mの大イチヨウが境内を細やかな彩りで染め上げます。

## ●尾山神社の樹林

藩祖・前田利家をまつる尾山神社。五彩のギヤマンが印象に残る西洋風の神門や、金沢城二ノ丸から移築された東神門が境内に人々を誘います。拝殿の前庭にそびえるイスノキは、この地方では珍しく樹齡200年にもなります。参道右の琵琶などの古楽器をかたどった島や、橋が配された池泉回遊式庭園には「動」の趣があり、クロマツ、アカマツ、スギ、スダジイなど高木の深い緑を育む社叢林には「静」なる趣を感じます。

## ●いしかわ四高記念公園

尾山神社東神門からいしかわ四高記念公園へ。金沢市街地のほぼ真ん中にあるいしかわ四高記念公園は、まちなかの緑のオアシスとして憩いの広場、さらには四季を通じてさまざまなイベントや行事が展開される賑わい空間創出の場として利用されています。一方、広坂通りに面した赤煉瓦の旧四高校舎（石川四高記念文化交流館）周辺は、ふるさとの森やアカマツ、イチヨウの大木が生い茂り、ほんのりとした明るさで感傷的な気分させられます。

公園に隣接している道路の両脇には、数十本のアメリカフウが植えられています。樹高20mの木々たちは、春は若葉が萌え、夏には深緑が爽快さを演出します。特に秋は、朱や黄色、橙、深紅と鮮やかに色彩を競い合い、その様は、美景のひとつに挙げられます。

## ●金沢城公園

いしかわ四高記念公園沿いのアメリカフウの並木道を抜け、玉泉院丸口からいよいよ金沢城公園へと歩を進めます。金沢城公園は、貴重な緑を保全しながら史実を尊重しながら整備が進められています。公園内では、四季を通して多様な動植物が観察でき



ます。特に本丸園地の森では、スダジイやウラジロガシ、モミなどの巨樹が大きく枝を広げ、木漏れ日あふれる散策路に芳しい緑の香りを漂わせています。エノキ、カラスザンショウ、チシマザサなどの木々やウバユリなどの野草も多く生育しています。また、園地内の池では、モリアオガエルの白い卵塊を観察することもできます。タヌキやアカネズミなどの野生動物が棲息していることも確認されています。公園内にはいくつかの櫓跡があり、素晴らしい景観を楽しむことができます。辰巳櫓跡では、市街地から野田山、倉ヶ岳、それに続く南の山並みが、丑寅櫓跡の展望台からは眼下に兼六園、遠くは戸室山、医王山などの山々が見渡せます。

国指定重要文化財の石川門や三十間長屋。菱櫓や五十間長屋など、百万石の息吹を現代に甦らせた復元建造物の優美な姿。また、平成27年3月、江戸末期の絵図をもとに、玉泉院丸庭園が再現されました。金沢城公園は、その風格ある歴史・文化、そして豊かな自然がひとつになった緑の中核といえるでしょう。



(モリアオガエルの白い卵塊)